

- 一 問一 ア
 問二 エ
 問三 ウ
 問四 イ
 問五 ウ
 問六 ア
 問七 エ
 問八 エ
 問九 ア
 問十 いつもは周囲を気づかい、自分の気持ちをおさえる大人びた「僕」だが、大切な人を失う恐怖を実感し、日ごろ抱えていたさびしさや離婚した母を恋しく思う気持ちを父にぶつけて困らせてしまっているという点。

(九十六字)

- 二 問一 a 要所 b 挙(げる) c 機器(器機も可) d 景色 e 前提
 問二 エ
 問三 ウ
 問四 イ
 問五 ア
 問六 ウ
 問七 エ
 問八 ア
 問九 イ
 問十 エ
 問十一 筆者が世界について見出した本来言葉では語り得ない法則性の体系を、まとまりを失わずになんとか言葉で表そうとする野心的な営みで、読者に多様な発見を与えてくれるもの。

(八十字)